富山県経済・文化長期ビジョン　構想例

資料2-3

	構想例	考えられる論点
【将来像1】新たな価値創造2045		
1　生産性向上と新たな価値創造	**（1）第4次産業革命を勝ち抜くための製造・研究開発拠点の整備** **第4次産業革命を勝ち抜くため、 IoT、ﾋﾞｯｸﾞﾃﾞｰﾀなどの活用を進め、産学官が連携し、ナノテク、高機能素材など、富山の強みである素材分野の技術を活かし、オープンイノベーションにより、新たなビジネスモデルの創出、宇宙・航空機など成長が見込まれる産業への参入を促進するもの** ①IoTを活用し、生産工程の効率化により生産性を飛躍的に高める「富山型スマート工場モデル」の普及 ②富山の強みであるアルミ等の素材技術について、産官学が連携し、アイディアを組み合わせることによる革新的な技術開発（オープンイノベーション）の拠点として、「材料科学研究拠点」を設置 ③電気エネルギーで走る完全自動走行車の部品供給拠点の形成 ④AIやIoT技術を活用した自動運転による次世代型交通システム等のソフトウェアに関する研究開発 ⑤富山のアルミ技術などを活かした宇宙、航空機産業の技術開発拠点の形成	○30年先を見据え、IoT、ビッグデータ等を活用し、どういった成長産業への参入、構想・プロジェクトを目指すべきか。 ○生産性が向上することで、人材不足が解消される一方で、多くの仕事がAIに置き換わり、円滑な労働移動への対応が指摘されるが、新たな付加価値を生み出すため、働き手にはどのようなスキルが必要となるか。 ※「富山型スマート工場モデル」・・・生産設備の稼働データをインターネットで収集・分析し、生産工程を最適化。（協力工場等へも拡大
	（2）とやま産！再生可能エネルギー活用日本一と「水素社会」の構築 **地球温暖化の防止に貢献するため、地熱資源量や包蔵水力が全国2位といった富山の強みを活かし、地熱・小水力等の再生可能エネルギーの利活用を促進するとともに、水素等の新たなエネルギーの普及を加速化し、アルミ等の富山のものづくり技術を活かした「水素社会」の構築を目指すもの** ①豊富な資源量を活かした地熱発電所の建設や小水力発電の推進 ②将来の純国産資源として期待されるメタンハイドレートの調査研究 ③燃料電池車（FCV）や水素ステーションの普及拡大、アルミ産業技術を活用した水素の保存に関する研究開発など、富山の技術を活かした「水素社会」の構築	○再生可能エネルギーにより発電された電気は、それぞれの地域で消費されることも効果的と考えられ、将来に向けてどのように活用されるべきか。
	（3）バイオ技術を活かした「薬都とやま」の確立 **富山大学、県立大学等の研究成果や医薬品産業界が保有する技術を活用するとともに研究所の誘致など、「薬都とやま」の確立を図るもの** ①国の大型プロジェクトの成果を活かし、環境負荷の少ない酵素反応による医薬品生産の実用化 ②製薬企業とものづくり企業とが連携し、高付加価値な医薬品の製薬機器の開発 ③既存の研究所を活用したバイオ医薬品の画期的な製造技術に係る研究の更なる推進に加え、国家的な研究所の誘致	○バイオ医薬品の製造技術・製剤技術に関する研究には多額の費用を要することや、開発された技術が医薬品メーカーによって円滑に活用されるとともに、そのような技術を活用した医薬品の国内外での普及が円滑に進むよう配慮する必要があり、研究の推進や研究所の設置・運営には、国内外の主要な医薬品メーカーや、国内及び海外の主要な規制当局との連携を十分に図る必要があるが、行政としてどのように関わるべきか。 ○生産する側以外に、「薬都とやま」を推進するに当たって、どのような取組みが考えられるか。
	（4）成長産業として力強く魅力あふれる農林水産業の確立 **多くの若者が夢を持って就業するよう、最先端技術の活用や他分野との連携を一層推進しながら、意欲ある担い手の所得を増大し、成長産業として力強く魅力あふれる農林水産業の確立を目指すもの** ①無人ロボット農機の導入など、ロボット技術等を活用した「とやま型水田スマート農業」の構築 ②健康機能性を持つ水稲新品種等の開発や県産食材の海外展開などにより、高品質で競争力のある食材の宝庫「食の王国とやま」づくり ③優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の全国普及による「スギ花粉症ゼロ社会」の実現と豊かな森の継承 ④急峻な地形や海洋深層水等を利用した漁場の整備など、天然のいけす「富山湾海洋牧場」の造成	○本県の農林水産業がさらに収益性を高め、持続可能な成長産業として発展していくよう、担い手の確保・育成、経営基盤の強化、需要の拡大等の施策を展開していくためには、長期的な投資が必要であり、県民の農林水産業への理解醸成、6次産業化や他産業との連携などを含め、農林水産業がより稼ぐ力を高めていく方策を考えていくべきではないか。
	（5）北陸新幹線大阪延伸による大ゴールデン回廊形成と拠点性の強化 **北陸新幹線大阪延伸により、ゴールデンルートと新ゴールデンルートがループ状につながることで生まれる一大交流・経済圏の中で本県の拠点性を高めるもの** ①乗り換えなしの「環状型新幹線」の形成 ②北陸新幹線への貨物搭載と東海北陸自動車道の早期全線4車線化を組み合わせた物流の活性化 ③飛行機とクルーズを組み合わせたフライ＆クルーズの推進	○北陸新幹線をどのように活用すれば富山県の大ゴールデン回廊における拠点性を高められるか。 （新富士駅（富士山）～黒部宇奈月温泉駅（立山）乗換なし） ○新幹線に、物流の面から、東海北陸自動車と組み合わせ、富山県の拠点性を高めることについて、どう考えるか。他のインフラとの組み合わせにおいてもどのような優位性が考えられるか。

	構想例	考えられる論点
2　地域文化が生活に溶け込む「生活文化ﾃﾞｻﾞｲﾝ王国」	**（6）未来の生活様式を見据えたアート・デザイン県とやまの創出** **第4次産業革命による生活様式の変化に適合し、「TOYAMAブランド」を創出してアートとデザインにより製品・サービスを高付加価値化することでその魅力を国内外に発信するとともに、伝統工芸を担う人材の育成を推進し、アートとデザインを活用した産業・文化の活性化による魅力ある地域づくりを目指すもの** ①県総合デザインセンターを中心に、アルミなどの素材や伝統の技の活用したブランド開発、アジア、欧米とのデザイン交流による販路開拓等を実施 ②高度な技法が将来世代に継承されるよう、伝統工芸・デザイン人材の育成のための「とやま未来伝統産業カレッジ（仮称）」の開講 ③本県の優れた伝統工芸（KOGEI)の魅力の発信によるアートとデザインを活用した産業・文化の活性化と魅力ある地域づくり	○生活雑貨から最先端の工業製品まで、デザイン活用に取り組むものづくり企業等の裾野をさらに広げていくべきではないか。 ○デザイン・アートを採り入れる人材や伝統工芸に携わる者について、県内のみならず国内外から多くの人材を募るためには、どのような取組みが効果的か。
	（7）30年後の未来へ残る普遍的なクリエイティブな文化の創造 **アニメ等のクリエイティブな商品を制作する人材育成を進めるとともに、アニメ、キャラクター等のコンテンツ産業などの集積を図り、30年後の未来へ残る普遍的なクリエィティブな文化の創造を目指すもの** ①海外のクリエイターと共同作品制作の機会を設けるなどアニメをはじめとしたクリエイターの育成の支援を行うとともに、コンテンツ産業の企業誘致を実施 ②アニメ等のコンテンツと工芸を組み合わせた新たなクリエイティブな文化（例：銅像）を創出し、観光を活性化 ③マンガ・アニメの聖地ともいえる本県に観光客（巡礼者）を呼び込むため、情報発信のための拠点の整備、YouTube等の動画による積極的な発信、県内の聖地に来なければ体験できないもの（例えば、VRによる参加型の映像）の開発	○アニメやデザインなどのクリエイターを集積するためには、どのような取組みが効果的で、行政がどのような環境整備を進めていくべきか。 ○魅力的な巡礼コースの選定にあたっては、どのような点に着目し、どのような点に工夫があることが望ましいか。
	（8）文化芸術資源をもとにした文化芸術クラスターの形成 **技術革新による生活様式の変更やグローバル化の進展の中でも、生活の中に溶け込んだ文化や伝統を維持しつつその変化に適合するため、文化芸術資源等の地域の文化的な潜在力を活用・発展させ、さらには関連の食文化や観光文化等も組み合わせることでクラスターを形成し、生活の中に文化が溶け込む県民生活の充実を目指すもの** ①とやまの魅力ある文化芸術資源や他の資源を組み合わせた「文化芸術クラスター」の形成と、文化芸術資源活用人材を育成するリーダー達による新たな地域文化の創造 ②県立文化施設内で、獅子舞や民謡等の伝統芸能、生活文化等についてVR等で五感をもって臨場感溢れる鑑賞や体験ができる「バーチャルミュージアム」の構築 ※「文化芸術クラスター」：美術館、博物館等文化施設や伝統産業など地域の文化芸術資源等を基として、文化財のみならず、食文化などの生活文化等も一体のものとして文化を幅広くとらえることで観光等の関係分野や産学官の連携も行いながら戦略的に進める拠点のこと。	○文化芸術クラスターの再構築にあたり、文化芸術関係以外の分野からの参加を促進するには、どのような方策が有効と考えられるか。 ○バーチャルミュージアムの富山ならではのテーマ・切り口として、例えば、これまでの近代美術館の蓄積を活かす「デザイン」などが想定されるが、他にどのようなテーマ・切り口が考えられるか。

	構想例	考えられる論点
3　価値創造力を高める学校教育プログラムの確立	**（9）未来のイノベーションを起こすために必要な人材の育成** **「ヒューマンスキル(※)」とICTなどの「テクニカルスキル(※)」が融合した人材の育成など、未来における技術革新等に対応し、乗り越えるチャレンジ精神を持った、未来のイノベーションを起こす人材の育成を図るもの** ①異なる年齢層や外国人等との交わりの中で多様性を認めオープンな考え方を持つ人材の育成 ②アクティブ・ラーニングの推進等による柔軟な発想力や表現力の育成 （県立学校と文化施設を組み込んだ学習プログラムの開発・活用） ③ICTリテラシーの育成強化とプログラミング教育等による論理的思考力の育成 ④ヒューマンスキルとテクニカルスキルが融合した人材育成に係る高等学校でのモデル校指定 （※）ヒューマンスキル：ヒアリング、ネゴシエーション、プレゼンなど （※）テクニカルスキル：プログラミング、データ解析など	○新たな教育環境や教育的課題に適切に対応できる実践的な指導力を有する教員をどのように育成するか。
	（10）未来社会が求める人材を輩出する新たなキャリア教育システムの確立 **新規高校卒業者の就職率が全国第1位となり、新規高校卒業者の県内就職率が全国第2位の高い地元定着率を示すなど、本県の先駆的なキャリア教育の取組みと実績を活かし、「富山型キャリア教育プログラム」の開発に取り組むもの** ①産官学「キャリア教育コンソーシアム」の設立による、幼児期から高校までの体系的な「富山型キャリアプログラム」の開発・普及	○小・中・高校生の就業意識の醸成をより効果的に行うため、企業見学や「社会に学ぶ『14歳の挑戦』事業、高校生のインターンシップなどの職業体験において、企業や地域にとって役立つような持続可能な仕組みとするにはどのような工夫や取組みを行うべきか。
	（11）第4次産業革命を見据えた人材育成のための教育研究体制の構築 **ロボット工学や複合素材、デザインなど富山が強みとするものづくり分野等に関し、世界に通用する高度なレベルを確立するため、第4次産業革命による技術革新等に適切に対応する人材を育成する教育研究体制を構築するもの** ①最新の情報技術の発展にも対応できるデータサイエンティストの養成や県立大学におけるロボット系学科の新設 ②県立高校におけるプロダクトデザインを専門とする学科の創設	○優秀な教員の確保が不可欠であるため、県内関係団体や企業等産業界の人材を教員として活用することが考えられないか。

	構想例	考えられる論点
【将来像2】グローバル＆ローカル2045		
4　世界に存在感を示す「とやまｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ戦略」の展開	**（12）「とやまグローバル戦略」の推進** **グローバル化の進展下、富山の風土から生まれた独創性のある高品質な製品・サービスにより、新興国等の市場の需要を喚起し、工芸品、農林水産物等の輸出額を大幅に拡大するとともに、対日投資の促進や物流活性化など、海外からのニーズを取り込んだマルチな経済連携によるグローバル戦略を展開するもの** ①「とやまグローバル戦略」を策定するとともに、「とやま産業海外展開支援機構（仮称）」を設立し、官民一体のワンストップサービスで輸出促進、企業の海外展開支援、対日輸出促進、留学生の受入れ等を推進 ②新興国など、発展有望な国や地域との新たな経済交流の促進 ③農林水産物や加工品、環境システムや高付加価値製品等の輸出拡大	○官民が一体となって、具体的な現地ニーズや橋渡し役をどのように発掘し成功事例につなげていくか。
	（13）選ばれ続ける観光地 富山 **今後、グローバル化が進展する中、外国人観光客等の取り込みや、関連企業の誘致を進めるため、県内の世界水準の観光資源の高付加価値化や、他の観光資源の発掘とブラッシュアップを図り、戦略的な情報発信により「海のあるスイス」という観光ブランドを醸成し、「選ばれ続ける観光地　富山」を目指すもの** ①立山地域における山岳スキーの振興 ②立山の雄大なロケーションで富山湾の海の幸を味わえるといった上質な宿泊施設の整備など、県内観光資源の融合の推進 ③広域観光を促進するため、北アルプスゴールデンルート構想を推進	
	（14）アジア諸国とのネットワーク構築による「とやまの薬」の国際展開 **アジア等の行政官や医療関係者に対して、伝統的な配置薬販売等の県内の医薬品関係の取組みや日本の医療提供体制・医療保険制度等をﾊﾟｯｹｰｼﾞとして学ぶ機会を提供するとともに、県内関係者とのネットワーク構築を図り、ｱｼﾞｱ地域等の保健衛生の向上と富山県の医薬品産業の海外展開の促進を図るもの** ①保健衛生等の関連分野の研修の実施 ②県内関係者との交流機会の提供、人材ネットワークの形成 ③ネットワークを活用し、アジア諸国に海外訪問団を派遣し、県内医薬品産業の海外進出の促進	○（独）医薬品医療機器総合機構による、アジアトレセンGMP調査研修など、関連する取組みと連携して、効果的、効率的な実施を図るべきではないか。
5　世界に開かれた「とやま文化」の発信	**（15）世界への発信による「とやまの文化GDP」の拡大** **「とやま文化」を継承していくため、世界における富山の存在感を文化的にも一層高め、観光客等を呼び込んで市場を拡大していくことが必要であり、そのために世界各地とダイレクトに繋がる国際的な文化交流を推進し、世界中から芸術文化人が集う芸術文化の拠点を形成し、「とやまの文化GDP」の拡大を目指すもの** ①「世界ポスタートリエンナーレトヤマ」や「とやま世界こども舞台芸術祭」など県内の世界に誇る国際文化イベントの発展と、世界的な新たなイベントの形成・誘致 ②ユニークベニューとしての活用など産業施設、文化施設や文化財の観光資源化の推進 （※）ユニークベニュー：「特別な場所」でのイベント実施により「特別な体験」などを作り出す仕組み ③大伴家持や幅広いジャンルの本県ゆかりの作品の国内外への発信による「TOYAMA　literature（文芸）」の確立	○これまで育成、支援してきた国際的な文化イベント等に加え、新たなイベント形成をどのような視点で立ち上げていくべきか。さらにこれらを発展・飛躍させていくには、どのような視点から取り組むのがよいか。 ○産業施設、文化施設や文化財の観光資源化に取り組むためには、官民連携による推進など、どのような視点に着目し、どのような方策により取り組むべきか。
	（16）アジアの舞台芸術拠点「TOGA」による地域の活性化 **国際的に定評のある“TOGA”において、地域密着の文化資源等を戦略的に最大限活用した質の高い芸術文化の創造と発信を行うことにより、アジアの舞台芸術の拠点を形成するなど、国内外からの交流人口を拡大することにより過疎地域の活性化を目指すもの** ①アジア諸国の教育・文化機関や欧米の芸術家等と協力して、国際的に優れた舞台芸術作品の創造と発信　これにより、世界との文化的交流を進め、観光や地域経済を活性化 ②舞台芸術の指導などを通じた国際的な視野を持つ本県ゆかりの舞台芸術人の育成	○優れた舞台芸術作品の創造と発信を、過疎地域の活性化に効果的につなげていくには、どのような取組みが有効と考えられるか。 ○本県で講義を受けた国際的な舞台芸術人と本県との絆を、その後も継続・強化していくには、どのような視点に着目して取組みを進めるのがよいか。

	構想例	考えられる論点
6　ふるさと教育とｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ教育の融合	**（17）富山が誇る「ふるさと富山」の探究（「とやま藩校」の体制整備）** **グローバル化の進展下、国境を越えた社会経済活動が当たり前となる中、富山県人、日本人としてのアイデンティティを持ちながら国際的に活躍する人材を育成するため、富山が世界に誇る「人物・文化・産業」等のふるさと教育を推進するもの** ①子どもから大人までライフステージに応じたふるさと学習の機会を提供する体制づくり ②県立高校において、万葉集や富山湾、売薬などについて、教科横断的に学ぶ学科等の創設	○学校以外の家庭や地域等で、ふるさとの文化や産業に親しむ取組みとしては、どのようなことが考えられるか。 ○県立高校において、郷土に対する誇りを醸成しながら、地域の活性化を促し郷土の活力を盛り上げる、そうした相乗効果が期待できる取組みとして、どのようなものが考えられるか。
	（18）郷土を学び英語で伝えるコミュニケーション能力の養成 **グローバル化が進展する中、対等にコミュニケーションができる英語力を身につけ、ふるさと富山について英語で語ることができる能力を「とやまメソッド」により育むもの** ①幼児期から高校に至るまでの体系的な英語教育プログラムの開発 ②ふるさと教育の教材等を英語教育に活かした「とやまメソッド」の開発等	○子どもたちが英語を身につけ、英語で富山を発信する意欲を起きるようにする仕掛け（きっかけや動機付け）として、どのような方向が考えられるか。
	（19）大学や高校におけるグローバルな教育環境の整備 **国際協調・競争下、未来の創造に向けて国際的に活躍し、グローバルな視点を持って豊かな地域社会の創造に積極的に貢献する人材を育成するため、県内大学生や高校生の留学派遣等を推進し、海外へ行くこと、外国人と接することが当たり前となる教育環境を整備するもの** ＜県内高等教育機関＞ ①国際学会等への参加や研究成果発表の単位化 ②県内高等教育機関が共同して語学教育や留学生との交流を行う体制（例えば、グローバル教育研究センター(仮称)）の構築 ③入試時に語学力や海外事業所への就職を条件とした学生募集や奨学金の支給等を行う仕組み（例えば、グローバル枠(仮称)）の構築 ＜県立高校＞ ①長期海外留学を必修とする「国際学科」の創設 ②海外姉妹校との間でインターネット等を活用した日常的な国際交流や留学生の相互受入れ ③中国語を習得するモデル校の指定など将来国際的に活躍する人材を育成	○国際学会等への参加や研究成果発表の単位化にあたっては、大学設置基準で定める単位取得に必要な学修時間数の確保や希望する学生全員に対して参加や発表が認められることが不可欠であることから、国際学会等を一層誘致することを考えられないか。 ○県内高等教育機関が共同して語学教育や留学生との交流等を行う体制の構築にあたっては、県内高等教育機関が設置している国際交流機関（国際交流センター等）の機能、運営方法等の調整や各機関の教育課程の見直しが必要ではないか。 ○入試時に語学力や海外事業所への就職を条件とした学生募集や奨学金の支給等を行う仕組みの構築にあたっては、就職先となる県内企業（海外事業所等を有する）を確保する必要があることから、経済団体等とどのような連携を図ることができるか。

	構想例	考えられる論点
【将来像3】人・地域が輝く 2045		
7　個の力を磨き上げ、潜在力を高める人材戦略の推進	**（20）生産年齢の引上げによる高齢者の活用促進（「かがやき現役率の向上」）** **超高齢社会の中、従来の生産年齢の上限を引き上げ、ライフステージの各段階で「今」の仕事にやりがいを感じながら、長い職業人生を健康に送り、地域を支え続ける社会を構築し、「かがやき現役率」を向上させるもの。** ①高齢者の短時間労働や兼業など多様な働き方を促進し、生涯現役社会の実現 ②とやまシニア専門人材バンク、シルバー人材センター、ボランティア団体などの連携による高齢者の多様な就業ニーズへの対応 ③高齢者を対象にした起業希望者向けのサポート ④第4次産業革命後も必要だと見込まれる定型化されない対人サービス等の業務について、豊富な高齢者の知識、経験、ノウハウ、人脈などを活用 ⑤キャリアコンサルティング等を活用した高齢者の多様な働き方や社会貢献の選択肢の増大 ⑥ロボット技術等を活用した高齢者の働きやすい環境の整備	○高齢者ならではの起業の促進という社会的な雰囲気を作り出すことができるか。 ○「かがやき現役率」の範囲は就業率に限らず、例えばシニアボランティア等の社会貢献活動も含めて考えるべきではないか。
	（21）若者や女性などが個性と能力を十分発揮できるキャリアアップの仕組みの構築 **若者や女性等が自発的にその潜在的な能力を高め、富山県の産業発展に貢献するため、年齢や性別、障害の有無、雇用形態等に関わりなく、その能力が適正に評価され、また、その個性や能力を多面的・多角的に活用することができるキャリアアップの仕組みの構築を目指すもの。** ①就業の際等に有用な情報のデータベース化や、多様な職業能力開発機会の提供、複線的キャリアアップの推進 ②若者や女性等の活躍促進のための意識改革と働き方改革の推進 ③テレワークを軸とした柔軟で多様な働き方の実現	○ストレスフリーなテレワーク環境を確保するためには、光ケーブルを利用したテレワークが不可欠である。県内には光ケーブルが整備されていない地域があり、その地域についてどのように整備を進めるか。

	構想例	考えられる論点
8　文化芸術の力で「元気とやま」を牽引	**（22）学校と地域でつくる文化の担い手育成** **学校や地域において特徴的な文化体験プログラムなどを展開することで、子どもたちの芸術文化への関心を高め、文化の担い手の育成を図るもの** ①子どものころから、学校や身近な地域で質の高い芸術文化に触れることができるようにするため、芸術文化体験プログラムの確立・展開 ②次代を担い、世界に通用する想像性豊かな文化の担い手を養成するための国内外の一流の指導者等と協力した人材育成プログラムの確立・展開 ③中心市街地の空き店舗等を活用した街角芸術文化ルームを設置し、様々な分野の若手芸術家等との交流や芸術文化体験活動の展開 ④文化の次世代の担い手たる若手芸術家の育成（作品の発表や展示の機会の提供）	○学校は教育課程を着実に実施することが求められるとともに、数多くの課題にも対応しており、芸術文化に特化した教育活動のみに重点を置くことは難しいことに留意が必要ではないか。
	（23）芸術文化活動を通じた県民総活躍の場の創出 **幼少の頃から気軽に質の高い芸術文化に触れられる環境の整備や、若手芸術家の活動機会の創出を図るとともに、文化の創造をサポートする活動も含めて文化を担う人材育成を推進し、芸術文化活動を通じた県民総活躍の場を創出するもの** ①分野を越えたコラボレーションや、若手芸術家を活用した子どもたちと文化の出会いの場を創出するため、「環水公園芸術文化ミュージアム」構想の推進 ②県内の多様な文化施設において、県民の文化の創造活動のきっかけづくりなど県民の文化活動の拠点の形成 ③音楽、舞踊などの創作活動に取り組む人々が舞台と同様の環境で練習を行い、交流を深めることができる創造・訓練の拠点の形成 ④子供から親子、若者などが幅広く、日常的に文化教養、コンサートやスポーツなどに親しむことのできる全天候型の文化スポーツ施設（アリーナ）の整備	○芸術文化に親しむことの機運醸成を図るためには、どのような取組みを推進することが望ましいか。 ○県民総活躍の場を創出するため、幅広い県民の文化活動を一層盛んにする観点から、文化施設は、どのような役割を担うのが望ましいか。 ○　全天候型の文化スポーツ施設の整備に関して、県民会館（H27.3月改修）、テクノホール（H29.秋増築予定）、県総合運動公園や市町村立を含めた体育館などとの関係性をどう考えるか。また、これらの類似施設の状況を踏まえ、県内にはどのようなコンセプトや運営方法の施設が不足していると考えられるか。

	構想例	考えられる論点
9　地域の生産性、問題解決力（地域力）の向上	**（24）富山の地域共生力の強化による地域価値の向上** **地域の絆や支えあいの強化など地域の凝集力を高めるとともに、住民が地域に愛着と誇りをもつような魅力ある地域づくりを通じた、地域の価値（ブランド）向上を目指すもの** ①地域共生を大切にする県民意識の向上のため、市町村と連携し、たとえば、支援を必要とする一人暮らし高齢者等を支える活動や介護施設等での活動などを対象に「ソーシャルキャピタル・マイレージ制度」を導入 ②「富山物質循環フレームワーク」を踏まえた『食品ロス、食品廃棄物の削減』の取組みなど、環境トップランナーとしての新たな地域の魅力づくり ③ICTの活用による多言語等に対応した生活環境の受入れ整備や、国際人材の積極的な社会活動への参画等による世界の人材が交流する世界に開かれた地域づくり	○「マイレージ制度」の導入にあたり、市町村等との役割分担、社会貢献と対価の関係を踏まえたマイレージを付与する分野や具体的な活動、インセンティブのあり方、その費用負担などについて、どのように考えたらよいか。（森づくり活動は、インセンティブがなくても多くの方々が参加） ○　ICTの活用においては、汎用性を高めるため、インフラ整備（大容量・高速通信等）をはじめ、気軽さ・わかりやすさ、情報の安心・安全などを担保する必要があり、こうしたシステムをどのように構築するか。
	（25）健康寿命日本一とやま **「次世代インフラ」等を活用し、健康づくりに取り組みやすい環境づくりと、支えあい精神にあふれる安全安心な地域を目指すもの** ①健康づくりの取組みを推進し、健康で自立した高齢者等の増加のため、「健康ポイント制度」の導入 ②ウェアラブル端末などのICTを活用し、健康等のアドバイスや見守り、医療・介護情報の提供など、地域全体で支える体制づくり	○「健康ポイント制度」の導入にあたり、健康増進をはじめ、疾病予防や介護予防などにつながる取組みを促す仕組みを保険者と連携を図りながら、どのように構築するか。 ○現在のウェアラブル端末の導入については、個人のデータを集約・分析することについて反発も予想されるため、十分な議論が必要ではないか。
	（26）先端技術を活用した公共交通のインフラ充実と利便性の向上 **自動運転技術を活用してインフラの充実を図るとともに、ICTを活用して利用者の希望に応じて必要な交通が提供されるシステム等を整備することにより、持続可能な公共交通と地域の活性化を目指すもの** ①自動運転技術を活用したバス等を導入し、交通不便地域等でのバス路線等の維持・充実を図るほか、都市部では主要駅から目的地までの数キロ程度を小型の自動運転バスが運行する交通システムの整備 ②県民の日常生活での公共交通の利便性向上のため、ICTを活用し、端末から希望情報を送信するだけで、必要な交通が確保され、発着時間の連絡や料金決済など必要なサービスが提供される「公共交通提供システム」の整備 ③外国人が県内の公共交通を円滑に利用できるよう、遅延情報や運休情報、駅構内・車内でのアナウンス等が自動的に主要言語に翻訳され、外国人が所有する端末に送信される「交通情報翻訳システム」の整備	○自動運転技術を活用したバスやタクシーの導入について、多額の経費が必要になるとすれば、交通事業者等の間でどのように合意形成を図っていくか。 ○システム開発と整備・運営に係る経費について、関係者の合意を得つつ、県、市町村、交通事業者及び利用者の間でどのように負担するか。
	（27）最先端技術を活かした防災先進県の実現 **30年後も自然災害等の人災が予想される中、人口知能技術やビッグデータの解析を活用した情報共有システムの構築等により、安全・安心な暮らしはもとより、他県や海外からも魅力的な防災先進県を目指すもの** ①災害予測情報や災害情報のリアルタイムでの共有、瞬時の発信、情報通信網等の複層的な整備 ②G空間社会（地理空間情報高度活用社会）をより発展させ、災害状況を正確に把握しその情報を関係者と共有することで、災害発生時の迅速かつ的確な初動対応、さらには避難所ニーズの把握 ③点検・モニタリング・診断技術やロボット技術等を活用し、システム化されたインフラマネジメントを実施	○例えば、豪雪等の厳しい自然条件など、システムに関しては富山県の特性に対応したものを開発する必要があるが、他にどのようなシステム開発上の論点が考えられるか。